

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第5号

2017(平成29)年5月26日

(編集 梅田正之 090-5042-7775)

命取りの機械 — 便利さが私たちにもたらすもの —

明治16年に発行された『住吉堺名所並に豪商案内記』(国立国会図書館デジタルコレクション <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/803704>)に、綿繰器械製造所が紹介されています。114コマあるうちの8コマ目です。そこには以下のように記されています。

「綿繰器械製造所 寫秀吉 桜之町大道。コノ足踏綿繰器械ハ女子一人ニテ一時間ニ實綿ニシテ五百目ヲクリダシ其操綿美ナル事コレニスギルモノ世ニ非ズ」と。

目は重さの単位で匁に同じです。1匁は約3.75gですから、五百目は1,875g。すなわち、女子1人で1時間に約1.9kgの実綿を繰ることができるという謳い文句です。この数字がどれほど驚異的なものであるかということは、昔ながらの綿繰り機を使ったことがある者でなければわかりません。

ところで、昨年5月に89歳で亡くなった父は、亡くなる10日ほど前まで、毎日元気に昔ながらの綿繰り機を用いて、綿繰りをしていてくれました。事情があり、我が家に両親を迎えることになって共に過ごした2年の間、父は「ワシにも何か手伝わせてくれ」と、綿繰りや、繰り綿のゴミ取りを手伝ってくれました。「ゆっくりしてきてくれたらいいから」と言っても、「毎日、何もすることがないのは却って辛い。こんなことでも自分が役に立っていると思えば生活に張りがある。晩酌も美味くなる。」と、積極的に手伝ってくれました。そして、綿繰りの作業記録も残してくれていました。一例を挙げると、下記のとおりです。

平成28年2月12日(金)	和綿	実綿100.2g	綿繰り10:00~10:30	繰綿25.9g	種73.6g
		(ゴミ取り	10:50~12:10。再検15:20~15:50)		
平成28年2月25日(木)	洋綿	実綿100.2g	綿繰り10:30~11:10	繰綿37.6g	種60.3g
		(ゴミ取り	11:20~12:40。再検13:30~16:20)		

和綿と洋綿の違いがよくわかります。繊維が短い和綿の方が繰り易いのは、経験者なら誰しもが実感するところです。平均すると100gの実綿を繰るのに、和綿の場合で約30分、洋綿の場合で約40分です。すなわち、1時間の仕事量としては和綿の場合で約200gとなります。

綿繰りに関しては、父はすでに初心者ではありませんでした。その父でさえ、1人で1時間に繰ることのできる実綿の量は200g。女子1人で1時間に約1.9kgを繰ることができるという綿繰器械が如何に画期的なものであったかは推して知るべしです。

ただ、もしこの器械が我が家に導入されたとしたら、きっと父は悲しんだことでしょう。その悲しみは、明治時代に西洋式の紡績機械が導入されはじめた大和で「女の命取りの機械が来た」(『大和百年の歩み』昭和45年 大和タイムス社刊。293頁)と噂された脅威に通じるものがあるように思います。それは、決して金銭だけの問題ではなかった、と私は思います。

コピーは、『住吉堺名所並に豪商案内記』より→



Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成29年4月26日~平成29年5月25日)

岩手県1、山形県2、埼玉県1、神奈川県2、三重県1、京都府3、岡山県1、広島県1、徳島県1、愛媛県1、高知県1、福岡県1、鹿児島1、沖縄県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成29年4月26日~平成29年5月25日)

メールを含む各種相談件数3、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数3件3名



《綿の栽培記録 2017》 — 平成29年度版 その1 —

これから年末の綿木引きに至るまで、綿の栽培記録をレポートします。種蒔きの適期は『綿圃要務』に「八十八夜前後」と記されており、木綿庵では例年5月3日に種蒔きを行うことにしています。ちなみに今年の八十八夜は5月2日でした。

綿畝にマルチを施し、今年は和綿を107穴、洋綿を43穴に3点蒔きで植え付けました。予備用ポットは和綿35個、洋綿24個。

早いものは播種後3日ほどで発芽し、遅いものでも2週間のうちにはほぼ芽が出ました。

ちなみに、2週間経った時点で順調な発芽が1つも確認できなかった穴が和綿11穴、洋綿10穴。種々の条件が考えられますが、ポットの場合で発芽率は約7割でした。



【天理ぐるぐる参画行事：「綿の種蒔き、綿繰り、糸紡ぎ体験」を実施】

平成29年5月3日（水・祝）午前11時～午後1時 木綿庵1号畑にて開催

参加者は19名。最初に綿の栽培方法、種蒔きの要領、ポイントについて説明を行い、みなさんに作業を分担していただき、種蒔きを行いました。その後、畑の一面にブルーシートを敷いて綿繰り、綿打ち、糸紡ぎの方法を実演。綿打ちには竹弓と唐弓を、糸紡ぎには糸車と手作りスピンドルを使用し、みなさんにも体験していただきました。

【綿の加工の作業記録】（梅田1人の作業量）

・糸車を用いての糸紡ぎ量（洋綿）

4月26日～5月25日（作業実日数22日）糸の総量92.8g（24.75匁）総時間242分（4時間2分）

※1分間≒0.383g 1時間≒23g（6.1匁）

◆前号第4号の記録（作業期間）に誤りがありました。期間は「3月26日～4月25日」でした。それ以外のデータには間違いはありません。

【機織り用具を譲っていただく】

平成29年5月13日（土）。先般、旧式の高機を譲っていただいた方より、関連する機織り用具をあらたに譲っていただくことができました。整経台、座車（ざぐるま）、小杵（こわく）、箆（おさ）、管巻（くだまき）機草（はたくさ）等々です。機織り教室に通いはじめたおかげで、一つひとつの道具の意味がよくわかり、心が躍る感動を覚えました。

【研修等の記録】

- ・平成29年5月3日 天理ぐるぐる参画行事「綿の種蒔き」を実施
- ・平成29年5月7日「相楽木綿伝承館：機織り教室初級③整経」（京都府相楽郡精華町）受講
- ・平成29年5月13日 奈良県大和郡山市へ、機織り用具を受け取りに行く
- ・平成29年5月14日「織成館（おりなすかん）」（京都市上京区浄福寺通）を訪問、見学
- ・平成29年5月21日「相楽木綿伝承館：機織り教室初級④巻き取り」（京都府相楽郡精華町）受講

【以下の写真は、5月3日の種蒔き、西陣の織成館、5月26日の和綿の様子です。】

